

グラン・バレエ・カナディアン。



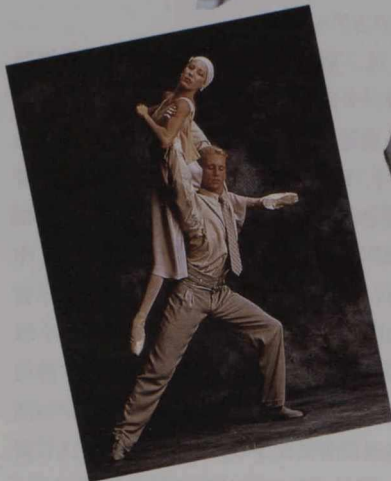
バンクーバー交響楽団の指揮者セルジュ・コミッショナー。



ミュージカル

イヌイット彫刻展、「赤毛のアン」など 今年いっぱい 各種のイベント

新庁舎完成記念



文化イベントがいっぱい

今年は、「ザ・イヤーズ・オブ・カナダ・イン・ジャパン」。カナダ大使館が、新庁舎の完成を記念して、日本でカナダの芸術や文化を紹介する数々のイベントを繰り広げる年だ。

カナダの芸術を形容するとき、「革新的」とか「前衛的」、あるいは「独創的」といった言葉がよく使われる。いずれもカナダ文化の躍動的状況をよく反映している。文学でも、ダンス、映画、音楽、あるいはその他どんな芸術領域でも、カナダの芸術家たちは、国内はもちろん、世界各地で注目を浴びている。イヤーズ・オブ・カナダは、日本初公開の数々のカナダ作品

オーフラ・ハーノイ。

や、すでにおなじみの懐かしいカナダの芸術家や作品をお届けする。

イヌイット芸術展で本格オープン

イヤーズ・オブ・カナダの本格的幕開きは、5月28日から新庁舎ギャラリーで始まるイヌイット芸術作品の展覧会「マスターズ・オブ・ジ・アークティック／極北の名匠たち——地球に奉仕する芸術」だ。カナダのノースウェスト準州に住むイヌイットの人々の作品を中心にアラスカ、シベリア、グリーンランドからの彫刻や織物、仮面、版画などを一堂に集めた意欲的な企画である。自然と一体に生きるイヌイットの伝統的な魂にふれることのできる展覧会として、アムウェイ環境財団が協賛し、国連環境計画とノースウェスト準州が後援している。

7月は「グレート・カナダ'91」

一連のイベントの中でハイライトになるのは、「グレート・カナダ'91」。カナダ大使館と「グレート・カナダ'91」実行委員会の岡田晃プロデューサーらが中心になって企画したユニークで野心的な一連の文化イベントである。カナダの建国記念日である7月1日から2週間、東京・渋谷のBunkamuraと青山通りのカナダ大使館新庁舎を中心に、開催される。バレエ、音楽、映画、美術など、カナダ第一級の芸術が公演または展示されることになっている。

「グレート・カナダ'91」の最大の目玉は、7月5日から10日まで、Bunkamuraのオーチャードホールで行なわれる「レ・グラン・バレエ・カナディアン」。カナダの3大バレエ団のひとつである同バレエ団は、ケベック州やカナ

ダにおけるダンスの発展に大きな役割を果たしてきた伝統をもっている。今回の演目は、ストラビンスキーの「ペトルーシュカ」、チャイコフスキーの「セレナード」や「パ・ド・ドゥー」といった、ロシア・バレエの中で最も有名な作品など



オーフォード弦楽四重奏団。

が予定されている。

7月1日と2日、オーチャードホールでの幕開きは、ピアニストのルイ・ローティとチェロのオーフラ・ハーノイを迎えて、鬼才セルジュ・コミッショナーが指揮するバンクーバー交響楽団だ。80年を超える歴史をもつ同交響楽団は、クラシックからポップスまで幅広い作品をレパートリーに国際的に活躍している。

7月1～7日、Bunkamuraのシアターコクーンで上演されるのは、ご存じ「赤毛のアン」のミュージカル。1965年に初めてこのミュージカルがシャーロットタウン・フェスティバルで公演されて以来、カナダ全国から、また世界各地から合計100万人を超える人々が、プリンス・

